

集落ぐるみでの総合的な獣害対策(滋賀県甲賀市大澤集落)

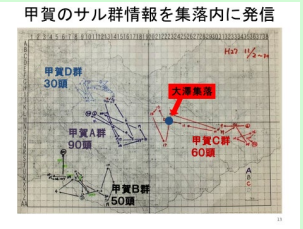
- 獣害が全国的な課題となる以前から、集落ぐるみで独自に工夫改良して獣害対策に取り組
- 各地の先進事例を参考に試行錯誤して独自の被害防止対策に取り組み、サル被害をほぼ完全に防止
- 主な取組内容は、①集落住民による防護柵の自主施工、②多獣種対応の電気柵の設置による家庭菜園の運営の共同化、③サル接近情報を活用した追い払いの実施、④集落住人による有害捕獲の実施等の獣害対策活動が集落の活性化に貢献

取組内容

- H5年、個別で設置していた水田のトタン柵を集団管理する電気柵に切り替え、H22年には交付金事業を活用し、住民施工で集落内の水田全体に恒久柵を設置以後、集落組織で柵の徹底した維持管理を実施



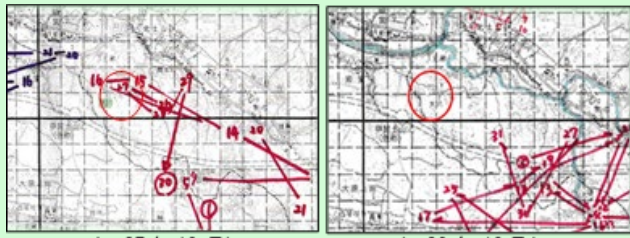
- H19年、個別で作付けしていた畑の運営を共同化し、サル侵入防止を主目的とした多獣種対応柵を設置。以後、改良・整備を加え現在も侵入防止効果が持続
- テレメトリーによるサル接近情報を活用した追い払いを実施
- 集落住民で捕獲隊を編成し有害捕獲を行い、「守る・獲る」の総合的な獣害対策を実施



- 獣害対策が契機となって集落が活気づき、収穫祭や農業体験受入れの取組に発展

成果

- 集落住民による柵の設置・管理、捕獲等により水稻被害をほぼゼロに抑制
- テレメトリーによるサル接近情報を活用した徹底した追い払いにより、集落周辺へのサルの侵入を防止
- 獣害対策を通じて活気あるむらづくりが進展



(H27年10月) (H30年10月)
サルの群れの行動域の変化(矢印はサルの動き、○は集落)

集落ぐるみでの総合的な獣害対策(滋賀県甲賀市大澤集落)

きっかけ・背景

- 四方を山に囲まれた集落で、常に獣害が発生
- 自らの財産(農作物)は自らの力で守ることが重要

課題

- 取組開始時には、支援施策や集落の防除技術が確立されておらず、手探り状態
- トライ&エラーで獣害対策を進める必要

Step1 防護柵の整備

- 集落総出で水田に電気柵を設置。菜園の運営の共同化と多獣種対応電気柵を設置。自主施工による恒久柵の設置を推進

Step2 サル接近情報を活用した追い払い

- 毎日、サルのテレメトリー信号を受信してサルの居場所を確認。集落住民に接近情報を発信して、追い払いを実施

Step3 守るから獲るへ

- 農家の数名が狩猟免許を取得、農地周辺でシカ・イノシシの有害捕獲を実践

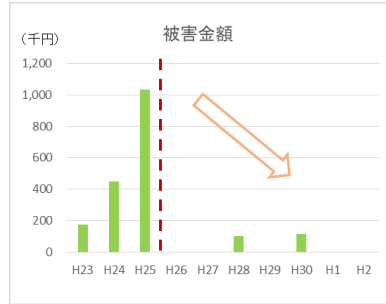
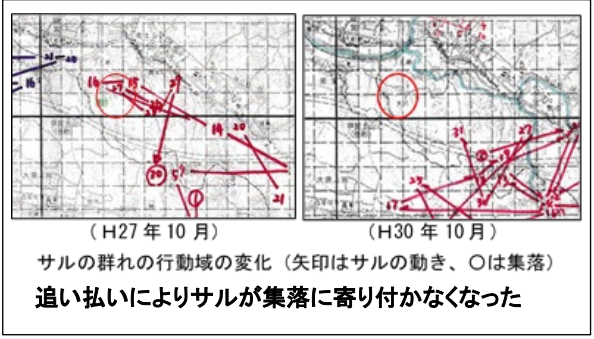
残された課題など

- ① 次期リーダー育成
- ② 周辺集落への波及

取組による成果・効果

- 集落住民による恒久柵の設置・管理、シカ・イノシシの捕獲により水稻の被害をほぼゼロに抑制
- 徹底した追い払いにより、集落周辺へのサルの侵入を防止
- 集落ぐるみの獣害対策を通じて、当事者意識が向上し、集落外の参加者を招いた収穫祭や、高校生の農業体験受入れの実施等により活気あるむらづくりを実現

共同作業で柵を設置



取組の特色

- 自らの力で獣害を防ぐ。トライ&エラーで常に防護技術のを改善
- テレメトリーによるサル接近情報を活用した徹底した追い払い対策を実施